

しまね・ほっとプレイス

居場所のつくりかた



冒険したり ご飯食べたり お話したり…

わくわく どきどきがいっぱい！



ここに来れば ひとりじゃない

ほっとできる場所

それが みんなの居場所



どんどん広がれ！

はじめに

『しまね・ほっとプレイス 居場所のつくりかた』をお手に取っていただき、ありがとうございます。

このガイドブックは「県民との協働推進モデル事業」の一環として作成したものです。「子どもや若者、保護者が安心して過ごせる多様な居場所を地域に増やす」という県政課題の解決を目指して、既存の居場所の機能強化や新規立ち上げの増加の一助になるようにとの願いが込められたものでもあります。

このガイドブックの作成過程で浮き彫りになったことが沢山ありました。それは小学生の居場所は多いが中高生や若者の居場所が少ないこと、子どもが自分で選べる居場所が少ないこと、そして居場所のない子ども・若者や孤立した親がいること等々です。これらが明らかになるにつけ、もはや個人や個々の居場所の対応では追い付かなくなり、全県のネットワークを作って行かねばならない、と確信したところです。

そこで私たちは、「子ども主体で多様性と安心感があり信頼できる大人のいる居場所」を『しまね・ほっとプレイス』と名付け、広げていきたいと考えています。また、ネットワーク構築のツールとして「しまね・ほっとプレイス」メーリングリスト、通称「しまプレ」を開設しました。これからの時代に必要性が認識され、居場所が増えるに連れ、立ち上げ方法や運営上の困りごとが沢山出てくると思われます。そんな時、このガイドブックや「しまプレ」を活用し、お問い合わせいただければと思います。

全ての子どもたちが安心し、希望が持てる地域文化の醸成のため、皆さんが一步を踏み出す勇気の素になることができれば幸いです。そして、子どもたちの未来を考え、行動する沢山の仲間と出会い、そして協働し、ネットワークが広がっていくことを心より願っています。

2 はじめに

4 事例紹介①《子ども》
ガキ大将養成委員会
「放課後子供教室事業/北陽わんぱくクラブ」の立ち上げ実践

6 事例紹介②《青少年》
NPO法人緑と水の連絡会議
ゆきみーると子ども食堂「定食屋みーる堂」の立ち上げ実践

9 事例紹介③《乳幼児と親》
NPO法人おやこ劇場松江センター
「ほっと♡ちょこっとカフェ」の立ち上げ実践

12 居場所のつくりかた **ステップ1 企画する**

14 居場所のつくりかた **ステップ2 準備する**

15 居場所のつくりかた **ステップ3 事業当日～振り返り～次回の事業**

16 **インタビュー**
島根県内で居場所を立ち上げている人に聞いてみました
高田みんなの学校(奥出雲町)・おおだ子ども食堂(大田市)・青少年の会(邑南町)

18 **情報コーナー 支援相談機関の紹介**

20 **居場所立ち上げQ&A**

「しまね・ほっとプレイス」のネットワーク(通称しまプレ)に入って、様々な情報交換をしましょう

「子ども主体・多様性と安心感・信頼できる大人の存在する居場所」
それが「しまね・ほっとプレイス」

ネットワークに入れば、様々な情報を交換したり、仲間を探したり、運営の相談ができます。

《NPO法人緑と水の連絡会議 ほっとスペースゆきみーる(担当:高橋)》

✉ koukentai@hotmail.co.jp ←左記のアドレスへ、連絡ください!

「放課後子供教室事業/北陽わんぱくクラブ」 の立ち上げ実践

《連絡先》ガキ大将養成委員会 ▶ 出雲市武志町743-6 TEL: 0853-21-7966

どんな思いで？

- *保護のための学童保育ではなく、子ども達が地域の自然の中で積極的に遊び、自然の楽しさ、美しさ、美味しさ、厳しさ、危険を体験することで、地域への愛着を深め、心身ともに逞しく成長して欲しい。
- *年齢差のある子ども達が一緒に遊びながら、年長者は責任感のあるリーダーシップ（ガキ大将）を、年少者はグループの中で自分の役割を確認し、互いに思いやる気持ちを育てていく。
- *年齢差、校区、家庭環境に関係なく、親子が必要を感じれば期間の限定なく参加できる。
- *保護者が運営に積極的に参加することで、親と子の意思を尊重した環境を作り、共働きで地域につながりが薄くなりやすい親同士の交流の場とする。

誰と一緒に？ 仲間さがし

- *学童保育保護者会の中から同じ意思を持った有志で立ち上げ。
 - *2名の常駐指導員を雇用し、保護者の積極的な協力、ここで経験を積んで立派なガキ大将となった卒業児童（中学～大学生）のアルバイトとしての参加で、しっかり安全管理しながらしっかり体を使って遊べる環境を維持。
 - *事業に理解ある保護者だけで実施するため積極的な広報をしていない。
- ※過去、学童保育より安いと大勢の参加がある時期があったが保護者の協力も少なく、子ども達も荒れた経緯があり。

どんな場所で実施しようか？

- *小学校、公民館、神社に近い空き家を借り上げ、親子が見て最低限の安全のための改造を施した。
- *周囲に空き家が多数あり、隣家も更地にされたことから遊び場として借りている。
- *近所の神社、目の前の用水路、ちょっと歩いて行く河川敷等も積極的に遊び場として利用している。
- *年数回のイベントとして、春の北山登山、斐伊川川遊び、三瓶等での日帰りアウトドアクッキング、琴弾フォレストパーク手作りそり大会参加等の遠征も実施。

具体的な事業内容は？

- *月曜～金曜、平日の放課後～18時30分、長期休み中の8時～18時30分開所。
- *長期休み期間は1食120円で昼食を提供。
- *そば打ち、餅つき、ちまき作り、座禅、科学教室、木工教室等、専門講師や地域のお年寄りの協力による体験活動や季節の行事を実施。
- *年数回の土日を使ったアウトドア遠征。



餅つき

掛かる経費は？

- *放課後子供教室事業から、専属指導員給与、アルバイト学生賃金、講師謝金、保護者の事業参加に対する謝金をまかなう。
- *放課後子供教室事業費からの謝金不足分、家賃、施設維持費、消耗品とその他経費を参加児童の保護者から参加費として月額7,000円を徴収する。

困っていること、心配なこと？

- *施設が民間からの借り上げのため、相続等で契約が維持できない可能性、補助金を使った修理や改造が出来ない。
- *常駐指導員は3名以上を維持したいが、現在の賃金体制では募集に応じてもらえない。
- *運営保護者が子どもの卒業と共に入れ替わるため、運営役員の維持が大変。



どこでも
スラックライン制作



鉛筆削り体験



どこでも
スラックライン



斐伊川 引率者のための
水遊び安全管理教室



サツマイモほり



斐伊川川遊び



ロープのほり体験

ゆきみーると子ども食堂「定食屋みーる堂」の 立ち上げ実践

(ゆ=ゆきみーる、定=定食屋みーる堂)

《連絡先》NPO法人緑と水の連絡会議 ▶ 大田市大田町大田1376-1 TEL：0854-83-7373 (担当：高橋賢史)

どんな思いで？

ゆ 不登校の中学生が卒業した場合や、高校を中退した場合、学校や会社に所属していない場合に、地域に居場所や関わる人がなくなってしまうという状況を変え、年齢等で区切られない居場所を作りたいかった。

定 居場所を利用する若者の中に、いわゆる「コ食」や三食を食べていない、お菓子が主食の者が複数おり、皆で一緒にご飯を食べる機会を定期的に行っていた。また、子ども・若者を含め多くの人にゆきみーるを知る機会を持ててほしいかった。

誰と一緒に？ 仲間さがし

ゆ 居場所事業担当が仕事（不登校小中学生の通級教室）で他機関との会議の中で4～6年かけて圏域での居場所の必要性を共有していた。また、環境系のNPOである緑と水の連絡会議の会員として活動する中でも圏域で居場所を作りたいと声を上げて役員や会員から理解を得ていた。

定 居場所スタッフ間で3～4年かけて食を通じて団らんを体感できる事業を定期的に行いたいという思いを共有し、機会が来るのを準備しながら待っていた。当日は居場所スタッフ3名を中心に、国際ボランティア1～2名、若者ボランティア2～4名、一般ボランティア若干名で準備をしている。

どんな場所で実施しようか？

ゆ 母体のNPOと連携関係にある企業が所有する施設の一画を借りることができた。

定 連携企業の理解を得て、居場所と同一施設内のスペース（時々若者と一緒にカフェ等を開催している）を使わせてもらうことになった。



具体的な事業内容は？

ゆ 居場所スペースを整備し、平日の10：00～17：45に常勤1名と非常勤1～2名を配置している。何もなかったりした日からスポーツや屋外活動の日なども設定している。就労へ向けた取り組みも増えてきている。利用料は正会員3,000円（月額・減額措置あり）、モニター会員1回100円（3時間まで）。

定 毎月1～2回、メニューをカレー（時々ハヤシライス）とサラダ、フルーツに固定して開催している。前日までに食材等の寄付状況を見て買い物をし、当日3～4時間前から調理や会場準備を始め、2時間食堂を開催し、1時間程度をかけて片付けをしている。食事はバイキング形式で自分で盛り付けをして食器を洗うところまで各自でしてもらい、子ども無料・大人は100円以上の寄付をお願いしている。

掛かる経費は？

ゆ 立ち上げ経費は県の助成金を活用した。その後、県のモデル事業を経て市の委託事業として運営を継続している。人件費、家賃、光熱費、保険料、広報費、屋外活動費などを計上している。委託費以外に企業や個人からの寄付、登録者の利用料といった収入があり、登録者の活動参加費負担を軽減している。

定 会場費、広報費、光熱費、食材費、保険料、スタッフ人件費は居場所の勤務（食堂ではない）として計上している。会場費は協力企業の事業趣旨への理解を得て、低く抑えてもらっている。その他、必要な経費については助成金や参加者等からの寄付で実施している。

Schedule

ゆきみーる立ち上げまでのスケジュール

2010年

1月

- ◎場所確保内定
- ◎必要経費やスケジュールを調査
- ◎助成金申請

3月

常勤スタッフ候補探し

4月

助成金審査会
助成決定

5月

工事開始
利用規約等作成

6月

広報開始
関係機関訪問

7月

居場所開設

みーる堂立ち上げまでのスケジュール

2016年

前年

- ◎事業立ち上げへ向けた相談・検討会場決定、先事例視察

2017年

3月

助成金審査会

4月

- ◎具体的な準備
- ◎器具等調達

5月

◎理念の決定・共有

6月

◎金額・調理内容決定
◎広報開始

7月

第1回開催

定食屋みーる堂開催日前後の流れ

1



前日、当日朝までの寄付食材を見て買い物内容を決定、買い出しに行く。

2



分担し、調理の準備をする。

3



調理開始、会場準備も並行して行う。

4



開場、流れを説明し盛り付けを促す。

5



食べ終わったら片付けも促す。

6



ゆきみーる（居場所）の広報もする。

「ほっと♡ちょこっとカフェ」の立ち上げ実践



《連絡先》NPO法人おやこ劇場松江センター ▶ 松江市中原町71番地 TEL/FAX：0852-22-4937

どんな思いで？

*正しく子育てしなければと頑張りすぎてしまったり、初めての子育てにイライラしたり、結婚や仕事の関係で全く知り合いのいない土地で不安を抱えながら子育てするママたち。そんなママたちが笑顔でかわいい赤ちゃんとの生活を楽しめる場をつくりたい♡という思いで立ち上げました。



どんな場所で実施しようか？

- *参加者にとってわかりやすい場所。公共の場で、ある特定の地域色がない場所を選んでいます。
- *駐車場は必須。事業実施の最低3か月前には場所を押さえます。
- *おやこ劇場松江センターの事務所は乳幼児がくつろげる和室やキッチンがあります。事業内容によっては事務所で実施します。
- *事業内容によってふさわしい場所をスタッフで相談して決めています。

誰と一緒に？ 仲間さがし

- *今のスタッフはみんな幼児から社会人を子どもに持つ現役ママ。仕事をしながら子育てをしているスタッフもいるため、自身の経験や今の子育て事情を見聞きしながら、今の子育て課題などを共有できる仲間です。
- *興味がありそうな人に声をかけて一緒に実施する仲間を増やしていきます。

具体的な事業内容は？

- *小規模な人数を設定。
- *参加者ママとスタッフの交流を大切にできる月1回の子育てサロンです。
- *事業内容は来てくれたママたちのアンケートを参考。
- *来たママたち同士も仲良しになってほしい♪という思いで、最初に「わらべうたあそび」で自己紹介。
- *そのあとは、その日のメインプログラム。そして最後に交流カフェタイムという流れで午前中の1時間半程度のタイムスケジュールです。

掛かる経費は？

- *会場費、講師謝金、広報費、茶話会用の飲み物とお菓子代が必要です。スタッフ人件費は、ありません。
- *会場費は、行政の支援で無料で利用できる場所を探したり、手続きをすることで掛からない工夫をしています。

- *その他、必要な経費については助成金や参加者からの参加費で実施しています。



Schedule

事業計画までのスケジュール

6か月前

- 事業内容決定
- ◎講師依頼

3か月前

- 会場を押さえる

2か月前

- 広報開始
- チラシ・FB など

2週間前

- スタッフ当日打ち合わせ
- 参加人数・広報状況の確認

事業当日

事業当日のスケジュール

開始2時間前

- 会場集合
- ◎会場づくり
- ◎お茶の準備

サロン開始

- わらべうたあそび
- ◎メインプログラム
- 交流カフェタイム
- ◎参加者アンケート記入

片づけ

- ※後日、アンケートを見ながら振り返り

これまでの「ほっと♡ちょこっとカフェ」のプログラム



絵本の講演会



前髪ちょっぴん講座



わらべうたあそび



クリスマス
手づくりかざり



ハロウィーン
コンサート



ママの
リフレッシュヨガ



プラバンでおしゃれ
大人アクセづくり



参加したママたちの感想

とても心に響きました。
一人で悩まず、みんな
で子育てしたいと
思います。



リラックスでき、
ゆったりとした気持ちに
なれました。



子どもと一緒に
楽しめて、
よかったです。



「自分の軸」を確立して
いくためにも、たくさんの
人にふれて、絵本や芸
術にも触れて
いきたいです。



居場所 のつくりかた

ステップ 1

企画する

居場所の目的や対象を整理し、スケジュールを立てます

① 事業目的を明確にする

- 地域にどのような課題があるのか？
- 何のため？誰のために必要なのか？
- 組織運営は、技術的なことであれば後でも修正は可能ですが、理念については、なかなか変更できません。時間をかけてでも、このための議論は、しっかり行いましょう。

例：転勤家庭が多い地域で、身近に知り合いがなく、孤独に子育てをしている親が多い。つながりをつくり、楽しく子育てできる仲間を増やし、地域の活性化につなげる。

実際に書いてみましょう 

② 事業の内容を整理する

- 目的を果たすためには、どんな事業内容がふさわしいのか？
- 継続性をもっとも重要ですので、無理なくできることを取り組みましょう。

例：親同士や地域の人と知り合いになれ、子育て中の親が興味を持つ事業内容は何か？
つながりを重視するなら、参加人数を制限し、少人数で実施してみよう。

③ 対象とした人たちのニーズに合わせた時期や日程や時間を設定する

- 参加しやすい時期や日程を決めます。
- 事業を無理なく継続させるためスタッフの都合も考えましょう。

例：乳幼児を持ち、育児休暇中の親なら平日午前の時間帯が出かけやすいし、子どもの年齢や親の就労形態で出かけやすい時間帯はかわるなあ。

④ 拠点（活動場所）・名称を決める

- 対象者が来やすい場所（駐車場の数など）
- 利用施設の形態が事業内容に合っているか？
- 個人宅、地域の会館、空き家、空き店舗など
また、地域のお寺や公的な施設を借りる事例もあります。
- 名称は、親しみやすく、わかりやすい名前をつけましょう。

例：駐車場を利用する親が多い。

乳幼児が参加する事業なので靴を脱いで過ごせる環境づくり（畳、ジョイントマットなど）
お茶を飲みながら参加者同士、交流したいので飲食可能な場所を利用。

⑤ 事業を実施するのに一緒に取り組む仲間を見つける

- 地域の仲間、学校、自治会、ボランティア仲間など地域課題を共有し、意見交換や話し合いなどが気軽にできる相手
- 他地域で同様の活動をしている人や団体

※地域で活動している公的機関や民間団体、地域で行われている支援事業に出かけてみましょう。協力者との出会いにつながります。

⑥ 資金面の計画・広報の仕方やルール作り

- 事業内容によって経費が必要になります。予算計画をたて、どのように捻出するのかを考えます。どのように調達する？参加費は？必要な物品は？
- スタッフ、ボランティアの役割・ルールを明確にしましょう。

例：場所代、お茶代、保険代は参加費でまかなう。事業広報手段は？

例：ルール作りについて

- ・参加者情報の取り扱い
- ・参加者（保護者）へ写真撮影や写真の扱い方の同意
- ・参加者と私的なやり取りをしない等
- ・スタッフセミナーなどで学習する

ステップ2 準備する

にチェックしていきましょう 

事業目的、事業内容、仲間づくり、資金面、ルールづくり等を整理したら、具体的な準備に移ります。

開催1年前までに準備すること

- 資金の確保
※資金調達が必要な場合、助成金等を活用することができます。助成金説明会に参加し、十分調べることをお勧めします

開催6か月～3か月前までにすること

- 講師の確保
※講師依頼が必要な内容であれば、講師との日程調整（依頼する講師によっては1年以上前から調整する場合有り）
- 会場の下見・予約（複数部屋が必要な場合もあるので動線などを考慮する）
- スタッフ、ボランティアなどの確保
- 運営についてのルールづくり
- 参加者、スタッフ、ボランティアの保険手続き
- 広報（チラシ、地域への回覧、SNSなど）
※記載漏れがないようスタッフ間でチェックしましょう
《記載漏れの一例》問い合わせ先、事前申し込みの有無、参加費の有無、中止になった場合の対応 など
- 当日のスケジュールをたてる
- 飲食を提供する場合は保健所へ相談

開催1～2か月前までにすること

- 作成したチラシを配布する
- 参加者の確保
- 備品・準備物の手配、リスト表づくり
- 当日に向けての打ち合わせ（流れの確認、ルールの確認、役割の確認など）
- 飲食を提供する場合アレルギーについて参加者へ確認
- 講師・スタッフ駐車場の確認

開催1週間前までにすること

- スタッフ・ボランティア当日役割の確認
- 備品・準備物の最終確認
- 参加者状況の確認
- 会場レイアウトを考える
- 記録の仕方の確認（写真、アンケートなど活用する場合は準備）

開催前日までの準備

- 施設のカギを借りておく
- 持ち込むものが運びやすいようにまとめておく（スタッフの誰でも、わかるようにしておく）
- 進行表、参加者名簿、名札などの準備
- 参加費が必要な場合、釣銭の準備

ステップ3

事業当日～振り返り～次回の事業

いよいよ事業当日です。事業を実施した後はスタッフで振り返りをし、事業を継続・発展させていくための課題を見つけましょう。

事業当日

スタッフ集合（準備にかかる時間を考えて集合時間を決めます）

- ◎会場づくり（初めて来た人が分かるような会場づくりを意識しましょう）
- ◎受付準備（参加者名簿、参加費の集め方、名札、配布物など）
※参加者が分かりやすい動線を考えましょう
- ◎スケジュール、役割確認のための打ち合わせ
- ◎ケガや事故が起きた場合の対応の確認

事業開始

- ◎事業実施中、参加者が困っていないか状況を把握したり、見守り・声掛けなどをする
- ◎参加者が誰に訪ねていいのか分かるようにしておく
- ◎写真を撮る場合、参加者（保護者）に確認（撮影目的を明確に伝える）

事業終了

- ◎終了の仕方を工夫する
※参加者が次につながるような意識・声かけ・アンケートを行いましょう
- ◎片づけ
- ◎事業の振り返り（事業終了後、または日程を決めて行います）

記録のポイント（活動後の2～3日までには）

- 日時 場所 参加人数
- 参加者名 参加者の様子
- 参加者の感想 振り返りの会の内容
- 次回にむけての改善点
- ◎助成金助成事業の場合、報告書を提出。
その様式に従います

報告（活動後2週間～1か月を目安に）

- 報告資料を作成し、関係者や協力者へ報告
※写真などを入れて活動の様子が一目で分かるようにしておくで見やすい

その他

事業を立ち上げるときの サポート情報

事業の立ち上げをサポートしてくれる機関なども上手に活用しましょう

（P18 に詳しく記載）

- 助成金情報
- 保険
- 困ったときの相談窓口

島根県内で居場所を 立ち上げている人に 聞いてみました

- Q1. どんな居場所（事業内容）ですか？
 Q2. なぜ始めたんですか？
 Q3. 場所は、どのように見つけましたか？
 Q4. 資金や、仲間・スタッフはどうやって集めましたか？
 Q5. 居場所やスタッフとのルールを教えてください？
 Q6. その他、気を付けることがあれば教えてください。

島根県内には、それぞれの地域らしさを生かしながら、地域に住む子どもや青少年、小さい子どもを持つ親の居場所づくりを実践し、活動している人たちがいます。そういった団体の中から3団体、代表の方に居場所づくりについてのポイントを伺いました。ぜひ参考にしてみてください。

高田みんなの学校(奥出雲町)の宍戸さんに聞きました

A1 地元の学校がなくなってもみんなが集まれる場所を作りたい！とクラウドファンディングで古民家を改修し設立した図書館。読書だけでなく勉強会や交流会としても利用できます。

A2 本に触れることが少ない中山間地域で、本をツールにした居場所を作りたいとずっと思っていました。飲んだり、食べたりおしゃべりしたりできる図書館を立ち上げました。



A3 近所に30年以上空き家になっているところがあり、管理の方に相談し、火災保険は自分たちで加入し、家賃は無料で、貸していただけることになりました。

A4 改修費用を集めるためにクラウドファンディングを利用しました。目標150万円。4

か月で目標を達成しました。出資していただいた方にお礼とクラウドファンディングの会社への支払いが必要です。ネットワークの仲間やインターネットで情報を知った方から本のご寄付もありました。

仲間は、地元で長くから付き合いがある同級生とそのつながりから10人くらいです。



A5 ルールは、今のところありません。

A6 スタッフが無理なく、楽しみながら運営していくことが一番。子育て世代のスタッフ



なので、本来の目的を確認しながら、負担なくやっていくことを大切にしたいです。

連絡先

- ①高田みんなの学校 奥出雲町高田472(館長:川西 亮)
 ☒ satonowa.takata@gmail.com
 ②おおだ子ども食堂 ☎ 090-4897-4308(代表:横原 治)
 ③青少年の会 ☎ 0855-83-0305(浄土真宗本願寺派高善寺 副住職:武田正文)

！ おおだ子ども食堂(大田市)の横原さんに聞きました ！

A1 困っている子に食事を振る舞うのではなく、一緒に作って一緒に食べて、地域の人みんなで子どもを見守る子ども食堂。子どもは配膳や片付けを手伝ったら無料、大人は300円で誰でも来ていい場所。



A2 東京の子どもの貧困についての報道をテレビで観て、大田にもそういう子がいるのではと思ったこと、大田ではそういう子どもの情報・話が聞こえてこないことへの違和感があった。

A3 学童保育でお世話になっているルーテル教会の牧師さんに相談し、場所や設備をお借りしている。

A4 資金は、助成金は使わずに寄付で賄っている。立ち上げに必要な資金は割と早く集まった。私が保険の外交をしていたこと、それ

までにも地域の色々な会に参加していたことがよかった。

仲間は、学童保育の保護者が手伝ってくれたこと以外には、大田市子育て支援課の担当者が新聞社にFAXしてくれたこと



で協力者が集まった。その担当者とは別の会へ出席したことで知り合った。

A5 何のために、誰のためにやっているかを忘れないように確認している。特定の子を明らかにしたくない、特定のスタッフに頼らないようにしたい、ボランティアであっても参加費を払うといったことは決めている。

A6 まずは声に出し、小さくやってみることが大事。今後は学習支援等にも活動を広げていきたい。格差を縮めていきたい。

！ 青少年の会(邑南町)の武田さんに聞きました ！

A1 月に1・2回程度、運動をしたり、みんなでご飯を食べるなどの体験をしている。行政の方からバイトの紹介があり参加することもある。参加者は16歳～28歳(20歳前後)。男女それぞれ5人前後くらいが集まる。通信制に通っている子は運動がてら遊びに来て、家から出ることが課題の子はここになら出られるという子もいる。



A2 中学校卒業後、引きこもってしまうなどの支援の手が届かない若者世代が地域におり、何かできることはないかと思ったから。

A3 町内の公民館や体育館、お寺などの場所を借りている。

A4 基本的にはボランティアで行っており、経費が必要な場合は各家庭で実費を負担している。

A5 明確なルールは設定していない。無理なく参加できるようにしている。

A6 家から社会に出て、働くまでの一つのステップという感じ。季節ごとにBBQや鍋をみんなで準備したりするのは良い体験になっているようだ。



ともに活動する仲間と出会いたい 自分たちの活動について相談に乗ってくれる人が欲しい

【各市町村の社会福祉協議会】

私たちが住んでいる地域の生活・福祉課題について、関係者で協議しながら地域づくりを進めている民間団体です。

- 地区役員、民生委員・児童委員、主任児童委員とのかかわりも深く、活動を通じた繋がりがづくりを支えてくれます。
- ボランティアセンターがあり、ボランティア活動を促進するため、ボランティア活動に関する相談や研修会の開催、ボランティア活動のコーディネートを行っています。
- ボランティア保険加入手続きを行っています。(加入にはボランティアセンターへの登録が必要です)
ボランティア活動保険……活動する方たちのための保険
ボランティア行事用保険…主催者や参加者のケガや、主催者の賠償責任を補償するための保険

<http://www.fukushihoken.co.jp> **ふくしの保険** **検索**

- 助成金の情報提供をしたり、各市町村によっては独自に助成事業を行っているところもあります。

〈連絡先〉 **島根県市町村社協一覧** **検索**

始める前にぜひ訪ねてみてください。心強い味方になってくれます！

学生ボランティアをお願いしたい

【島根大学教育学部附属教育支援センター】

島根大学教育学部では、教育学部生を対象とした体験学修のための、基礎体験活動を募集しています。学生募集の手続きについては下記URLをご参照ください。

☎0852-32-9836

<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/aces/>

※応募後審査があり、時間を要します。

【島根県立大学・島根県立大学短期大学部】

島根県立大学では、学生が地域ボランティア活動に参加することを大学として評価するとともに、積極的に支援を行っています。

浜田キャンパス

地域連携課

☎0855-24-2396

✉h-chiren@u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス

看護栄養交流センター

☎0853-20-0220

✉i-koryu@u-shimane.ac.jp

松江キャンパス

しまね地域共生センター

☎0852-28-8322

✉m-volvol@u-shimane.ac.jp

※活動内容によっては受付できない場合があります。

食品衛生管理面のことを聞きたい

子ども食堂など食事提供の食品衛生管理面の相談は保健所担当課へ

あなたの居住地	相談窓口	郵便番号	所在地	電話番号
松江市 安来市	松江保健所 衛生指導課	690-0011	松江市東津田町1741-3	0852-23-1317
雲南市 仁多郡 飯石郡	雲南保健所 衛生指導課	699-1311	雲南市木次町里方531-1	0854-42-9667
出雲市	出雲保健所 衛生指導課	693-0021	出雲市塩冶町223-1	0853-21-1185
大田市 邑智郡	県央保健所 衛生指導課	694-0041	大田市長久町長久ハ7-1	0854-84-9805
浜田市 江津市	浜田保健所 衛生指導課	697-0041	浜田市片庭町254	0855-29-5561
益田市 鹿足郡	益田保健所 衛生指導課	698-0007	益田市昭和町13-1	0856-31-9551
隠岐郡(島後)	隠岐保健所 環境衛生課	685-0015	隠岐郡隠岐の島町港町塩口24	08512-2-9714
隠岐郡(島前)	島前保健環境課	684-0302	隠岐郡西ノ島町大字別府字飯田56-17	08514-7-8121

島根県内の相談機関を知りたい

各種相談機関は、しまね子ども・若者支援マップに掲載しています。

[しまね子ども・若者支援マップ](#)

[検索](#)

活動準備資金について知りたい

○県民応援サイト 島根いきいき広場

島根県共同募金会、ふるさと島根定住財団、島根県社会福祉協議会、島根県等が行っている助成金の情報を掲載しています。

<https://www.shimane-ikiiki.jp>

[しまね いきいき](#)

[検索](#)

○「助成財団-NPO・市民活動のための助成金応募ガイド」

公益財団法人助成財団センター発行

民間財団の助成金に関するガイドブックの決定版。

助成財団センターのデータベースからNPOや市民活動向けの公募プログラムを抽出し、その概要を紹介しています。助成金応募の手引きも収録。

居場所立ち上げ Q & A

Q1 広報（地域へ紹介）はどのようにしたら良いですか？

A1 地域の住民の方や対象者に場所や活動内容について知ってもらうことは大切なことです。呼びかけは次のような方法が考えられます。

●チラシ等を作成し、学校や自治会、子ども会などに協力を依頼し配布してもらう。

●公民館などの公的施設へのポスター掲示依頼。 …など

その他、周囲の人にも相談してみましょう。ふと目にした情報が思わぬつながりへと広がるかもしれません。まずは発信です！

Q2 資金面はどのようにしたら良いですか？

A2 基本的に居場所はお金が必要だと言えないものではありません。

まずスタートしてみて、それから自分達でモノを持ち寄ったり、賛同者が寄付を申し出てくれると言ったケースも考えられます。

しかし、継続させるためにはやはり資金を持つ必要があります。支出（初期準備、運営）、収入（会費、参加費、助成金）など運営方針に照らし合わせて整理してみましょう。

●初期準備

①備品購入（電話、FAX機、机、椅子、OA機器など）、②印刷関係（チラシ作成費など）、③事務消耗品（ボールペン、名刺、紙代など）、④居場所開設関係費（会場使用料、家賃など）、⑤会議費（設立準備のための会議費など）が考えられますが、団体等の規模や活動内容により異なります。

●資金面

会費または参加費として参加者に必要経費を負担してもらうのか？

負担なしとしたい場合、行政の委託事業、補助金、助成金に目を向けてみましょう！

賛助会員を募る・クラウドファンディングを活用する等を検討してみるのも一つの方法です。

Q3 安全管理・危機対応は？

A3 思わぬ「事故」が起きた場合、ケースによっては、損害賠償責任を問われることがあります。参加者や自分たちを守るためにもいろいろな保険がありますので、必要な保険に加入しましょう！

また、普段から、自分たちの活動にかかわる安全管理や危機対応の知識や技術を専門機関や団体の行う講習会等に参加し学習しておきましょう！

●各消防署や自治体で行われる講習会を受講し、応急手当の重要性、心肺蘇生法やAEDの使用法を身に付けておく。

●食事提供をする場合は、食中毒が発生しないよう事前に保健所に相談し、注意点を守り実施する。

●すでに活動している居場所で、活動内容に応じた安全管理のノウハウと経験を持っている団体があります。相談してみましょう。

例）外遊び・水遊びの講習会については、ガキ大将養成委員会へ。（P4へ）

県民との協働推進モデル事業「子どもや子育て家庭が気軽に利用できる居場所の整備」

（発行者・お問合わせ）

ガキ大将養成委員会 ☎0853-21-7966 / NPO法人緑と水の連絡会議 ☎0854-83-7373

NPO法人おやこ劇場松江センター ☎0852-22-4937 / 島根県健康福祉部青少年家庭課 ☎0852-22-6524